

栗東市総地域カラオケサロン

地域コミュニティ・団体部門

【取組の開始時期】 2017年9月～

【取組の頻度】 月に2～3回

【取組の目的】

認知症に関わらず誰もが温かく触れ合いで、お互いに思いやり、明日への希望を持って安心して暮らせるまちにしたいという思いから立ち上がった。当初は、自治会での活動であったが、他自治会からの参加希望の声も多く、現在は、総地域一体及び周辺地域からも参加を受け入れて開催している。

【活動の内容・効果】

主にカラオケを中心としたサロンであり、

当サロン最大の特徴は、**みんなでサロンを楽しんでいる**という点。

本人には役割を担ってもらうことで「私が行かんとサロンが始まられへん！」と、

一緒にサロンを運営していく楽しさにつながり、生きがいややりがいを持って継続的に通っていただけている。

認知症の人を参加者がフォローしてくださる場面もあり、「誰にとっても居心地のよい場であってほしい」というスタッフの思いを、参加者みんなで共有している。

また、認知症の方のみだけでなくその家族にも、サロン中の様子を写真で共有するなど、

様子をお伝えすることで、家族が自宅では知らない本人の生き生きとした姿を知ることにもつながっている。



【その他】

継続的に通っていただけることで、変化にいち早く気付くことが可能で、

普段と様子がおかしいと感じる際は、速やかに地域包括支援センターへ連絡をとり支援を依頼している。

【認知症バリアフリーの取組をするにあたってのアドバイス】

・好き寄り仲間をみつけよう ・地域社会の横の連携をとろう(自治会長・包括支援センター等)

・スタッフも楽しめる内容にしよう(みんなが歌える・みんなが主役)

・歌った人を歓声と拍手で盛大に褒めよう。(歌えた嬉しさは明日への元気の源)

・運営ルールはゆるゆるで良い ・現有施設、機材を活用し、無理をしない。

・1人ひとり出来る事を手伝ってもらい、やり甲斐、喜びを感じてもらう

受賞のポイント

- 身近な地域で無理なく始められ、他の地域でも取り組みやすい活動です。
- 認知症があっても役割を持ち、楽しみながら地域と関わり続けられます。
- 誰にとっても居心地が良く、地域の安心できる場所となっています。
- 長く続けてきたことが地域の信頼にもつながっています。

「新しい認知症観」とは？

認知症になってもできることがたくさんあります。

認知症になってからも、できること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

認知症になると何もできなくなるといったこれまでの考え方を、新しい認知症観に変えることがすべての取組の出発点です。

